

令和4年度主催事業「小中学校教員対象 体験活動指導者研修」事業報告

○開催日:7月29日(金)~7月30日(土) ○参加者数:30名 ○開催場所:英彦山青年の家

🌻 目標

小学校・中学校の若年教員が、学級づくりや集団づくりに役立つレクリエーションや自然体験活動等の指導に関する基本的な知識・技能を習得し、学級経営に生かすことを目標としました。

🌻 講話1 体験活動の意義～学習指導要領の改訂から～

講話2 「体験活動」+「授業改善」=学力向上～「つながる力」を軸とした取組を通して～



講話1では、学習指導要領改訂の基本方針の言葉を実際の体験活動の場面に置き換えながら講話を進めていくことで、「何のために体験活動を行うのか」「どのように体験活動を計画したらよいのか」の理解を図りました。

また、講話2では、添田町立添田小学校の益田校長先生より、体験活動を取り入れ、学力向上につなげた実践例の講話をしていただき、体験活動が学力向上の第一歩であることに気付くことができました。

体験活動についての講話風景

🌻 演習1 「自然の中での集団宿泊活動における指導の在り方」

体験活動を主体的・対話的で深い学びにするための手立てや工夫について学ぶ演習(野外炊飯)を行いました。野外炊飯をするにあたって、子どもたちが活動の見通しをもつことができる意図的計画的な活動展開の説明をし、受講生に実践してもらうことで主体的かつ協働的に活動する様子がたくさん見られました。



活動をモデリング化して協働的な取組とする手立ての工夫



子どもの目線に立って体験中



演習2 「集団づくりに役立つレクリエーション」



ビー玉等を班で工夫して速く運ぶ
レクリエーション「パイプライン」

レクリエーションにある教育的価値を理解し、学級目標につなげたり、望ましい人間関係の在り方を感じさせたりしながら実施することの大切さを伝えました。受講生もレクリエーションを体験することで、楽しいだけでなく、人間関係の深まりができていくことを感じてもらいました。



演習3 「宿泊研修」

希望者による宿泊研修では、「キャンドルのつどい」「ICTを活用した星空観察」「ナイトハイク」「ホットドック作り」といった英彦山青年の家のプログラムを体験してもらいました。各プログラムの実施方法を知るのはもちろんのこと、様々なプログラムを通して対話が増え、授業づくりや学級経営の悩みを交流したり、情報交換したりしながら過ごす姿が見られ、集団宿泊活動の意義を見いだせたように感じました。



キャンドルのつどい研修



参加者の声

- 体験＝体験活動と考えてしまい、体験をさせることに満足していました。教師が意図をもって、学びのある体験活動に取り組んでいきたい。自分の学級の子どもたちと一緒にしたいと強く思いました。
- 野外炊飯で一緒になった先生と「子どもの時にもどったみたいに楽しい」と話しました。子どもたちが生き生きと活動に取り組むためには、まず教師自身が生き生きと活動することが大切だと実感しました。失敗を責めるのではなく、そこから何を学んだか、どう生かすかを考えていきたい。
- いろいろなレクリエーションがあり、クラスの子どもたちと早くやりたい!!と思いました。レクリエーションを通して、自然と声かけや笑顔が生まれていてレクリエーションのよさをとても感じました。



全体を通して

コロナ禍で体験活動が制限される中で、改めて体験活動の重要性や体験活動の実施方法の理解につなげ、先生方の力になればという思いで、当研修を実施しました。

本研修を通して「体験活動は楽しい!」という実感とともに、「ねらいをもち、意図的・計画的に実践すると子どもたちはもっと伸びる!」と今後の学校生活で生かしていこうとする先生方の意欲にもつながったように感じました。

また、今回、夜の教員向け研修を初めて実施しました。英彦山の魅力を感じながら、初めて会った人たちの交流がどんどん深まっていく様子に、体験活動のよさを改めて感じました。

今後もこのような体験活動を通じた学校の教育活動支援を図っていきたいと思います。